

印度學佛教學研究

第三十卷第一號

[通 卷 第 59 號]

昭和 56 年 12 月

日本印度學佛教學會



印度學佛教學研究

第三十卷 第一號

同朋學園における
第三十二回學術大會紀要（一）

昭和56年12月

日本印度學佛教學會

新刊
和學
PDG

JOURNAL
OF
INDIAN AND BUDDHIST STUDIES

Vol. XXX No. 1 December 1981

[59]



PROCEEDINGS (1)
OF THE THIRTY-SECOND CONGRESS
HELD AT
DŌHŌ SCHOOL

Edited by
JAPANESE ASSOCIATION OF
INDIAN AND BUDDHIST STUDIES



印度學佛教學研究

第三十卷 第二號

同朋學園における
第三十二回學術大會紀要(二)



昭和57年3月

日本印度學佛教學會

新刊
和學
PDG

JOURNAL
OF
INDIAN AND BUDDHIST STUDIES

Vol. XXX No. 2 March 1982
[60]

PROCEEDINGS (2)
OF THE THIRTY-SECOND CONGRESS
HELD AT
DŌHŌ SCHOOL

Edited by
JAPANESE ASSOCIATION OF
INDIAN AND BUDDHIST STUDIES



目次

親鸞『教行信証』行卷「教と機の絶対不二観」……………	宮本正尊……………一
来世浄土と阿弥陀仏——浄土念仏の二要素……………	田村芳朗……………九
『統要篇』における十劫正覚の問題……………	河野憲善……………一七
因果律よりみたる正信偈・和讃の一分析……………	佐藤彰顯……………二三
円珍の胎金瑜伽記について……………	三崎良周……………六
源信の浄業論——特に善導との関係において……………	福原隆善……………四
『正法眼蔵』の成立(二)——道元禪師の事跡との関連において……………	東隆眞……………四〇
『十願発心記』所引の經典論疏について……………	奈良弘元……………四
禪の悟りと創造性……………	恩田彰……………三
日本唯識研究——普寂の法相教義批判——……………	太田久紀……………六〇
木喰仏群像考……………	小島通正……………六六
末寺の去就と信仰の政治的誘因……………	守屋茂……………七〇
——宇治興聖寺と大和十津川郷寺院の本末の特異例について——……………	佐藤達玄……………七六
元照戒観の展望……………	土橋秀高……………八二
金剛頂略出念誦經について——六巻本と四巻本との比較——……………	清田寂雲……………八七
華嚴教学における三昧について……………	増田英男……………九三
月称の涅槃観の一考察……………	丹治昭義……………九八
詩人ダビールに就て……………	鈴木斌……………一〇四

一切神讃歌における Visve Devai.....

破僧した後の提婆についで.....

初期仏教経典にみる世界壊滅と再成.....

大乘経典に見る破僧伽.....

『ミリンダパンハ』の研究——個人用コンピュータを利用して.....

“Upākaṣaṇāṅkāra”の研究.....

執事人 veyāvaccakara と守園人 āramika.....

『俱舍論』業品に於ける一考察.....

『瑜伽師地論』独覺地の成立考.....

成唯識論における生死相続について.....

Ratnakarasiṃhi の『アビサマヤ』注解書.....

金剛界曼荼羅の成立について(一).....

Saḍhanamālā 京都大学写本について.....

『梁高僧伝』の蔬食・苦行僧.....

吉蔵の頓漸説と三車四車説——天台の頓漸説との類似——.....

慈恩撰『因明大疏』について.....

「自性清浄円明体」の成立事情——「如来蔵」・「自性清浄心」の絶対化——.....

憬興師の末法思想について.....

了円の生存年代について——「法華靈驗伝」の成立時期をめぐって——.....

熊谷直実自筆誓願文について.....

専修念仏者安樂房遵西の処刑人.....

浄意法師について——特に宇都宮氏と証空の関係から——.....

覚禪と重源(一).....

藤井正人：二三

木川敏雄：二四

春日井真英：二六

五島清隆：二八

大室照道：三〇

中野天心：三三

松田真道：三四

佐竹大隆：三六

岡田行弘：三八

真田英範：三〇

小林守：三三

田中公明：三五

下泉全暁：三六

佐久間光昭：三八

末光愛正：四〇

根無一力：四三

小島岱山：四四

渡辺顯正：四六

金昌夷：四八

福田行慈：五〇

中野正明：五二

野村恒道：五四

江口正尊：五六

岡本貞雄：五八

親鸞思想における類・種・個	池田行信	一〇六
仏教女子教育の問題点(一)	龍村龍平	一〇三
最澄の唯識理解	由木義文	一〇四
『円頓戒法秘藏大綱集』について	窪田哲正	一〇六
教時問答における真言宗	久保譲	一〇七
永観の迎講について	石破洋	一〇五
明恵上人遺訓について	小泉春明	一〇九
『選拔集十六章之図』について	福原蓮月	一〇八
親鸞の三心釈	石原斌夫	一〇七
親鸞における大乘正定聚思想——その宗教倫理的意義について——	菊藤明道	一〇六
親鸞における真実信心の成就について	和田真雄	一〇五
安心論題の意義	五十嵐大策	一〇九
「浄土文類聚鈔」における自然	菊村紀彦	一〇三
法蔵菩薩論——無量寿經の対告衆——	飯山等	一〇七
一遍上人の念仏思想の展開過程について	梅谷繁樹	一一二
法華經思想の唯識的展開——法相唯識における法華經の意義——	上田晃圓	一一五
日蓮聖人の瑞相観	上田本昌	一一九
『永平広録』と『略録』の関係	伊藤秀憲	一一三
永平辨道話流通考(續)	遠藤孝次郎	一一七
法華經為字和訓攷——「定」と注される場合——	田島毓堂	一二一
水戸開基帳にみる曹洞宗寺院について	佐々木章格	一二五
独庵玄光について——儒教への関心をめぐって——	永井政之	一二六
妙心寺派の江戸進出の様態	中島亮一	一二二
日蓮の史跡をめぐる二、三の問題	松岡暁洲	一二五

京都日蓮教団と三条西実隆——交渉の接点を中心として——	糸久宝賢	二四六
越後本成寺と上総鷺山寺宗門一件について	中村孝也	二五一
妙好人伝研究史の検討	朝枝善照	二五四
真宗禁制と山伏および売薬商人	根井淨	二五八
大内青巖居士の軌跡——序論——	田中敬信	二六三
科学思想と業説との関渉	福原亮厳	二六五
現代真宗倫理考——行動原理について——	林信康	二六九
『大無量寿経』における「欲」について	経隆優	二七三
十住毘婆沙論考（十一）	藤谷大圓	二七七
瑜伽論における発心	小沢憲珠	二八一
世親と衆賢（二）	田端哲哉	二八六
大乗莊嚴経論（信解品）の原典考	舟橋尚哉	二九〇
説一切有部の大乘批判——自性——	吉元信行	二九四
思業と思已業	池田練太郎	二九六
断惑論からみた九十八随眠	加藤宏道	三〇三
体・相・用をめぐる二・三の点について——『起信論』の思想的系譜を尋ねて——	竹村牧男	三〇七
真言陀羅尼	坂内龍雄	三一三
Dignāga の hetvābhāsa に関する一考察	石飛道子	三一七
暗示機能 (vyāñāna) への一視点	寺内徹	三二一
惠能に関する年月日	長嶋孝行	三二五
智楷撰『正名録』について	長谷部幽蹊	三二九
天台智顗の地獄思想について	大野栄人	三三五
天台智顗における「如来藏」の語の意味	藤井教公	三三九
天台三大部の引用書目について——『摩訶止観』と『首楞嚴三昧経』——	仙石景章	三四四

吉蔵の經典觀……………	菅野史……………	三〇七
『華嚴經』に於ける如来の三業について (三)……………	中村薫……………	三五一
華嚴思想に於ける過去の義について……………	稲岡智賢……………	三五五
法華經における一乘思想三乘説について……………	伊藤瑞叙……………	三九九
唐代における觀世音菩薩信仰について……………	的場慶雅……………	三六五
「頗有」について……………	有賀要延……………	三六八
真諦三蔵の學説に対する西明寺円測の評価——解深密經疏の場合——……………	木村邦和……………	三七五
台湾の寺廟について (三)……………	岡田栄照……………	三七七
五輪塔成因の研究……………	齋藤彦松……………	三八一
学会創立三十周年記念 第三十二回学会大会記事……………		三八五
会則・役員名簿……………		三九四
會員資格に関する内規……………		二八〇
第三十三回学会大会開催予告……………		二八六
19世紀頃の韓日仏教……………	睦 楨 培……………	四〇五
『一切經音義』に見る『平等覺經』の難語……………	末木文美士……………	四〇九
Buddhacarita の付加部分と Lalitavistara……………	外 蘭 幸……………	四二三
Prakaranapāṭicika 研究 (Ⅱ)——abhaya に関する記述をめぐって——……………	黒 田 泰 司……………	四三〇
Vijāḥapanatti XV 章について……………	渡 辺 研 二……………	四三三
Uttarajñhā と言語學的註記……………	山 崎 守 一……………	四三六
Āyāraṅgasutta 1.5.6.2-4 について……………	谷 川 泰 教……………	四三一
意と語の祭祀的側面——Aghara を中心として——……………	土 山 泰 弘……………	四三五
詩人アクトル・シェーラーニーとロマン主義……………	片 岡 弘 次……………	四三九
作家ラーゼンダル・スィング・ペーディーについて……………	萩 田 博……………	四四三
灯論釈における外教受容の形態……………	広 瀬 智 一……………	四四〇

ラトナーカラシャーンティ再考.....	桂 紹 隆.....	四六〇
“cittasya nāmi śhānāt”	早 島 理.....	四六〇
敦煌藏文 mkhan po Ma ha yan 資料考(1).....	原 田 覺.....	四六四
チベット訳『仏説天地八陽神呪經』の敦煌写本.....	西 岡 祖 秀.....	四七一
Rin chen bzau po 伝研究	川 越 英 真.....	四七五
チンレンチン王に関する碑文について(Ⅱ)	高 崎 正 芳.....	四八一
Pāṇini-sū. 6. 4. 3 “nāmi”	Toru Yagi.....	四八二
Bemerkung zur sahopalambhanyama-Schlussfolgerung Dharmakīrtis und seiner Kommentatoren	Takashi Iwata.....	四八三
<i>Svabhāva-pratibandha</i>	Shiro Matsumoto.....	四八六
Textual Criticism of the Burmese and the Chalmers' Edition (1) — <i>Angulimalasutta</i> (M No. 86)—	Koji Hiraki.....	四〇一
The Taṛhāgata Entering the Womb (Garbha)	Gishin Tokiwa.....	四〇二

目次

ニヤーヤカンダリーの紹介する唯識説	本多	一
排中律に関するインド論理家の見解	中村	九
インド思想史における心の問題	村上	一五
『入大乘論』と中観学説	八力	二二
『深密解脱經』の「如実修行」について	島津	二六
中国法華教学における歴位成仏	丸山	三五
天台智顗の地論攝論学について	池田	四〇
中国浄土教と道教信仰	中山	四七
三經義疏の体系的成立について	橋本	五五
曼殊院本『出家作法』の問題——良忍作と推定することに関して——	白土	六二
一遍——自からの存在を如何に位置づけたか	古田	六八
選訳集草稿本第三筆は西山上人証空	上田	七四
明恵上人と九條兼実	坂東	八二
『正法眼蔵有時』考	鈴木	八六
『妙好人伝』（初篇）の信仰内容と性格	柏原	九四
近代真宗教学の問題	本多	一〇三
山崎弁栄の思想	藤吉	一〇八
親鸞『教行信証』行巻「教と機の絶対不二觀」（続）	宮本	一三

口伝法門展開の意義		中西隨功	一〇
親鸞教義に於ける信心の智慧 (三)		内藤康	二三
高野聖考——其の末路と定着化——		菊池武	二四
「禪僧」と戒律		小島惠昭	二六
夢——中世の仏教的文脈において——		西村正志	二六
盤珪永琢民衆教化の一考察		矢沢圭子	三〇
ananyalabhya-śabdārtha について		金沢篤	三三
Vyañjana へ Anumāna ——《Sāhityadarpana》第五章における anumāna 説批判——		波多江輝子	三四
Śaṅkara の prasaṅkhyāna 説批判		波多江博子	三六
四部・四阿含における四念処について		安藤正見	三八
Aṭṭhaka-vagga の諸版に関する一考察		南清隆	四〇
五戒へ Paṭimokkha		池山賢二	四三
NETTI-PAKARANA——Desanā-hāra の章——解析		春田神靜	四四
Karma-prajñāpiti (『業施設』) 解説		宮崎啓作	四六
「スタンレー王本生」研究 (一)		河野智子	四八
舍衛城神変説話		中川正法	五〇
Sārdulakarmāvadāna の研究		青山亨	五三
Lalitaviśāra に関する一考察——Traṇṣaḥallika 品を中心として——		松原秀道	五五
『中論』観去来品について		田原謙三	五八
『中辺分別論』における本来性 (prakṛtiya) と偶然性 (āgantukatva) について		Hoornaert Paul	五九
*Yogācārabhūmi-vyākhyā におけるマールヤ識とマナスの教証について		松田和信	六〇
Guhyasamāja-tantra 研究おぼえ書		奥山直司	六三
古藏撰『金剛經義疏』における問題		栗谷良道	六四
日嚴寺の建立について		花塚久義	六六

高麗均如の五教章注釈について……………	中	條道昭	一六
高麗仏教の図識信仰受容について……………	梁	銀容	一七
朝鮮朝初期雪岑の法界図註釈……………	韓	鍾萬	一七
新羅郷歌に於ける浄土思想……………	康	東均	一七
高麗知訥禪師の定慧結社と松広清規……………	卓	萬植	一八
順之に於ける一円相思想……………	韓	基斗	一八
五大院安然と台密の系譜について……………	水	上文義	一九
『三昧耶戒序』に説かれる勝義心について……………	伊	藤教宜	一九
親鸞の「往生論註」解釈とその展開についての一考察……………	村	上泰順	一九
親鸞における「即得往生」……………	岩	本泰波	一九
親鸞における疑謗について……………	川	添泰信	二〇
蓮如の研究——信仰構造について……………	山	崎龍明	二〇
『正法眼蔵随聞記』の性格について(中)……………	佐	藤悦成	二〇
宝地房証真と起信論——真如随縁説を中心に……………	武	覚超	二七
公案理解の一視点——古則公案と現成公案……………	原	田弘道	三一
契沖と神道……………	高	神信也	三六
越前丹山文庫所蔵麗蔵校合黄檗版一切経について……………	田	代俊孝	三三
中世曹洞宗における切紙相承について……………	石	川力山	三五
近世日本仏教の中の曹洞禪——宗統復古とその形式化について……………	大	谷哲夫	四〇
日本における群疑論の引用(二)……………	金	子寛哉	四四
民俗芸能に内在する信仰感情の特質について……………	西	崎専一	五〇
無我愛の特徵と問題点……………	三	宅守常	五五
R・ボレーンの「説教学」について……………	池	田豊人	六〇
敦煌本・南北朝期維摩経疏の系譜……………	平	井有慶	六四

会昌の破仏と禪宗	鈴木哲雄	二九
仏教資料としての新唐書芸文志	春日礼智	二七四
華嚴教判の問題点	石橋真誠	二七六
圭峯宗密の肉骨髓得法説の成立背景について	石井修道	二八四
宗密の『大乘起信論疏』について	吉津宜英	二八九
不空訳『摂無礙經』をめぐる問題	向井隆健	二九四
聖浄二門判と称名	久米原恒久	二九六
『涅槃宗要』の如来蔵説	李平来	三〇一
「念仏三昧詩集序」について	佐藤心岳	三〇四
智湧了然と宋の天台	大松博典	三〇八
宋元版禪籍研究(五)——宗門統要集・宗門統要統集——	椎名宏雄	三一
『臨濟録』の一考察	須山長治	三一四
中国清代における戒学	利根川浩行	三一〇
火羅図の図像と成立	真鍋俊照	三二四
『サーンキヤ頌』の譬喩	今西順吉	三三〇
八支ヨーガについて——ヨーガスートラ研究(四)——	樗尾慈覚	三三七
ウルドゥー長編小説の濫觴——ナズイール・アフマドについて——	都筑正夫	三三三
漢訳雜阿含考	伴戸昇空	三三七
新旧両毘婆沙論に於ける一・二の相違点について	梶田善夫	三五一
異生性論考	小川宏	三五五
タットヴァールタにおける衆賢説——界品について——	松濤泰雄	三五九
受具羯磨変遷と異教徒の集団帰依	龍口明生	三六三
初期大乘経典における菩薩	相馬一意	三六六
大品般若経の方便思想	日下俊文	三七〇

『八千頌般若經』における anumodana について	山口 務	三七四
法華經における Caitya の出現	三友量順	三七六
浄土三部經の施設學的考察——主としてその聴衆について——	山本啓量	三八二
菩提心の呪術性	田上太秀	三八六
『瑜伽師地論義演』について (一)	吉田道興	三九一
『瑜伽師地論』の心所法 (三)	清水海隆	三九五
会則・役員名簿		三九五
會員資格に関する内規		三九九
掲載されなかつた諸氏の發表題目	二七・二七六・二七九・二七九・二七九	三三四
spyi (類) と bye-brag (種) について	小野田俊蔵	三九五
敦煌の西藏文禪宗文獻の研究 (4)	沖本克己	三九六
ラーマヤナ I. 4 の音楽用語	島田外志夫	三九五
Nyāyasūtra I i 14 の解釈について	丸井 浩	三九〇
Nyāya 學派の Apoha 論批判	赤松明彦	三九六
クマールラの語意 (śabdārtha) 論 (1)	針貝邦生	三九二
Rāmānuja における brahman と現象界	石飛貞典	三九六
イラーチャンドラ・ジョーシーの作品——『季節の巡り』と『詩人の恋人』を中心に——	田中敏雄	三九三
釈尊の葬儀について	宇治谷 顕	三九六
維阿含 1299 經と 1329 經をめぐって——Gandhāri Dharmapada 343-344 と Turfan		
出土梵文写本 No. 50 の同定と Mahābhārata 13. 132 の成立——	榎本文雄	三九三
Dharmapada-aṭṭhakathā にみられる Udena 王物語	田辺和子	三九二
原始仏教に於ける滅の問題	羽矢辰夫	三九五
パンシル サハ セット・ピリット——現代スリ・ランカ		
仏教の存在形態に関する試論——	高橋 壯	三九一

Devatāsūtra ㄋ Alpadevatāsūtra	松村恒久
俱舍論註『金花抄』のころ	百濟康義
『成業論』における異熟識説	兵藤一夫
Śāntaraksīta の abhāva 註	島義徳
「PRAMĀṆAVĀRTTIKA. IV」解釈の問題——超越論的遂行論の視座——	谷貞志
Abhayāṅkaragupta の Haribhadra 註	磯田熙文
SAKALAJAGADVIDHĀTRĀṆUMĀNAM (III)	
——The Refutation by Bhāṣarvajña against the Criticism by Dharmakīrti——.....	Toshiniko Kimura
<i>anumāna</i> and <i>nyāya</i> of the Naiyāyikas	Keiichi Miyamoto
THE CONCEPT OF <i>PARYĀPTI</i> IN NAVYANYĀYA	Yukō Miyasaka
On the Retrogression of the Arhat in the Abhidharmakośa	Seiki Miyashita
A Synopsis of the Sarvadharmaniṣyabhāvasiddhi of Kamalaśīla (1)	Seiatsu Moriyama
<i>Dharma-Samuccaya</i> (éd. Lin), Chapitre VII (<i>Kamajugupsā-Varga</i>), 1-94 :	
des éléments supplémentaires aux <i>Appendices</i> de M. de Jong * ...	Yutaka Ojihara, Hideaki Nakatani